

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

（全般モニター使用）議長より登壇の許可をいただきましたので、ただいまより若木町、自由民主党、牟田、一般質問を開始いたします。

タコじゃないです、蛇です。へび年だから蛇ということにしました。蛇というのは、多くの方は嫌いな方多いですよ。嫌いというか、苦手な方多いと思います。蛇にまつわる話はいろんなところで話が、もう既にへび年だからあったと思うんですけども、多くの商業高校、商業系の大学、蛇を校章にしている、学章にしているところ多いんですね。それは何でかという、蛇は商売の神様というふうに認知されているから。だから、ことしはへび年、今、F B良品、シンガポールで話題になっています。商売の年へび年、ぜひこれから羽ばたくような形でやっていただければと思っております。

そしてまた、同じへび年で、こういうのですね。これ、前、1回言ったかもしれませんが。「佐賀のたる蛇、薩摩の芋づる」、これ、覚えている方もいらっしゃるかもしれませんが、でも、佐賀のたる蛇、どういうことかともう1回説明しますね。たるの中に蛇がいっぱい入っている。そうすると、元気がいいのが外に出ようとしている。そしたら、みんなで寄ってたかって落とすんですね。出させない、外に。次に元気がいいのが出ようとする。また、みんなで足引っ張る。これは佐賀のたる蛇ということわざで、これは明治時代の言葉らしいです。薩摩の芋づる、（発言する者あり）そこに続くわけですね、これから。薩摩の芋づる、薩摩の芋づるといのは、薩摩はぶわっと引っ張ったら、一緒に芋がついてくる。みんなで共存共栄しよう。これ、明治時代、明治時代で佐賀で偉人というのは少なかったです。今、いっぱいいらっしゃいますよ。でも、例えば、東京に出た江藤新平とか、そういう方々は、佐賀の中ではそういうふうにして足を引っ張る。そういうふうな風土があるというのが、明治時代にこの言葉が出たらしいです。

ですから、市長がたびたびここでおっしゃっている。私もそう思うんですけども、前向きに一般質問をしようよと、足を引っ張るんじゃない、やっぱりこういうふうにならなかって武雄を盛り上げよう、薩摩の芋づるじゃない、武雄の芋づるにならなしようよと、そういうふうな形で、私も一般質問をしたいと思います。いろんな形で、ネガティブじゃいけません。やっぱりポジティブに武雄市も一緒にならなやらないといけないというふうにお思っております。

例えば、この議会の一般質問だけでなく、いろんなところでも、例えば、私の辞任についてうそ書く赤い新聞とかですね、何とか通信でうそをついて、もうそういうふうのじゃなくて、もうネガティブじゃなくてポジティブに行こうと思っております。これから私の一般質問も、きょう、区長さんたちも来ていらっしゃいます。地域の代弁者、地域の声として前向きの質問をやっていききたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

これは、3.11のときに行きました。武雄市はほかの自治体よりも、私はこういう災害地、

災害に関して認識が深い市だと思っております。やっぱりこうやってすぐ行った。これは市長、吉川議員、こう運んでいるところなんですけれども、やっぱりこういうふうな、これも一つの原体験だと思うんですね。我々が初めて東北災害後行ったとき、もう本当にとめどなく悲しくて、もう本当にやるせないほど切なかった、無力感を感じた。でも、1件でも2件でも助けたいという気持ちが働いて、一生懸命泥まみれになりながらやった、この原体験が、例えば、執行部側の市長、議員も含めてですけれども、そういう災害、市民の安心・安全につながっているんじゃないかというふうに思います。

ちょっとしばらくこの画像を使うんですけれども、こうやって、これ、誰やったかな、上田さんかな。（「上田議員」と呼ぶ者あり）上田議員かな。これ、僕です。ちょっと1つぐらいは入れんぎいかんなどと思ってやっているんですけれども、これ、さっきから来ている、これがずっと一面続いていたんですね。こうやってずっと処分をしながら、こういうところを全部処分して、これ、バイクがもう流れ込んできているんですね。これ、本当に忘れちゃいけない3.11、東北、こういう中を、これを処分していかなきゃいけなかった。さっきいっぱいあったとを、こうやってずっと平らにずっととって、こうやって、全部とった。これは、誰やったですかね、積算したら10トン車十数台分を撤去したと、これも本当に無力感は漂うけど、1件でも2件でも手伝いになればということでやりました。そういう体験、原体験が安心・安全というところに、外にも、この武雄市にも向かって、これからもやっていってもらえると信じています。

これは、そのとき終わった後の集合写真ですね。こうやって、今、東北のほうで活躍している古賀龍一郎職員さん、あと、上田哲也さんですかね。

〔市長「上田哲也はおらんよ」〕（「おるおる」と呼ぶ者あり）

おりますね。はい。やっぱり一緒になって頑張ってくれました。こういうふうな原体験があります。こうやって雑魚寝でやりました。これ、頭は私です。こうやって雑魚寝だったんですね、ずっと。さっき行った現場は、トイレとかなかったから、スコップがトイレだったんですよ。そういうふうにしてずっとやりました。これは、昼御飯とか、晩御飯はカップラーメンとかなんかで、こういうふうなことで頑張ってきました。

これは、よし江さんからもらった手紙です。本当に感謝の気持ちで、こうやって10年くらいかかるのを——本当は10年もかからないけど、そういう気持ちだったのを、ありがとうという気持ちで書いていただきました。こういうふうに災害に対して、この武雄市は、外にも内にも、こういうことが災害の対応も先進地じゃなきゃいけないと私は思っております。

次ですね。

今さっき、地震でした。地震の話をしました。災害、よく聞くのが、地震、雷、火事、おやじですね。おやじはもう今、大したことないです。でも、火事、火事です、火事は武雄市内でも多く発生しています。平成22年度、25件、もう1カ月に2件以上は発生していると。

平成23年度も十数件、平成24年度は18件、少なくとも月1.5回から2回は火災が発生しております。末藤団長さん、本当にお疲れだと思っておりますけど、よろしくお願ひします。

先日、私、火災発生初期現場に居合わせました。そのとき思ったことで、こういうことがあったら、より一層防災になるなど、安心・安全につながるなど思ったことを、今から聞いていきたいと思っておりますけれども、これですね、これは消火栓です。消火するけど消火栓です。これですね、私が火災発生現場でふたをあけた消火栓です。その現場のやつです。でも、この——うち、若木町本部というところなんですけど、この消火栓はあるんですけど、これがなかったんですね。消火栓はあるけど、これがないから消火せん。

これ、ホースと筒先をつけなきゃいけないんですよ。そこで火事がある。ここに消火栓がある。これだけじゃだめなんです。格納庫まで行って、消防車をとりにいって、そのホースと筒先をそこにセッティングして、回して初めて水が出ると、ただし、このホース収納庫がそばにずっと設置してあれば、すぐ消火できます。多分、私が車をとりにいっていた、例えば、3分間か4分間の間に、もっとかかったかもしれませんけれども、もっと早く消火活動ができたと思います。

多分、若木町の——すみません、若木町であったので、若木町の話をしてんですけど、幾つかしかないんですね。やっぱりこういうのが武雄市内いっぱいあれば、すぐにできるわけですよ。これは、末藤団長さんもいらっしゃるのであれなんですけれども、何が大切かということ初期消火ですよ、初期消火。初期消火が大切なのに、このホースの格納庫がないので、とりにいかなきゃいけない。とりにいく間の5分、10分、近けりゃ——近くてもちょっとあれなんですけれども、その間が非常にもったいない。もったいないというか、危ない。

ですから、1つ目の質問なんですけれども、この消火栓のそばの消火ボックスの設置、今度のアベノミクスのいろんな防災対策、経済対策の中で、そういう中で、これを、多分ですね、ちょっと今、持ってきていないんですけれども、防災のやつが予算いっぱい、数千億円出ていたと思います。そういう中で、これを今後引っ張って、市内に置いてもらえないものか。

あと、もう1つ言えば、市内でも自分たちでお金を出してつくっていらっしゃるところ、結構いらっしゃいます。一応、事前に話しました。「こうやってやってくれて、うちは金出したとけ、どがんしてくるってやて言わんでしょね」と言うたら、「言わん」て言わしたけんですよ、ぜひこういうふうな消火栓の分、そして、消火栓だけでなく、このホースの設置を、いろんな補助とかなんとかで、できるだけ、全部とは言いません、できるだけ多くして、市民の安全・安心に寄与できないものか、まず、最初の質問といたします。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

お答えいたします。

先般出ました国の日本経済再生に向けた緊急経済対策においては、残念ながら消火栓のホース等の補助メニューはないということでございます。しかしながら、その中で、対策の中で、消防団等の地域の防災力の強化についても記載されているということから、今後、そういうメニューが出ることも考えられますので、注視していきたいというふうに思います。

ただ、整備する場合におきましては、消火栓のホースの格納庫に限らず、地域の消防力の総合的な強化の観点から、メニューをそろえながら、既に整備をしている地域についても配慮しながら整備していきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

これも消防団の方ならわかると思うんですけども、火災現場に行くと、一番最初にするのは、もちろん初期消火とさっき言いましたけれども、水利の確保ですよ、団長さん。水利の確保です。水利の確保ができないと水が出ない。これは、消火栓というのは水利の確保、すぐできます。

先般、例えば、若木町消防団で行った訓練というのは、水利の確認です。水利の確認がもう訓練になっている。ここで火災が起きたときは、どこから水を持ってくる、ここで火災が起きたら、どこから水を持ってくる。特に山間部が多いところは、なかなか水利の確保ができていく。そして、田舎だから水がいっぱいあると思うんですけども、なかなかないところがあるので、この消火栓があるところというのは非常に心強いというふうに、団員ともども話しておりました。

ぜひ、先ほどおっしゃいました全体的な見地からでもよろしいので、ホース格納庫、さらに、もしもう1つわがままを言えば、参議院選前にもう一回こういうふうな予算額出るかもしれません。ぜひ、そのときには、これで武雄市民の安心・安全の見地で設置していただきたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やっぱりこれこそ公明党なんです。あのね、防災・減災でニューディールといったときに、何もそれを、かたい箱物じゃなくて、やっぱりこういうソフトが必要で、これ、ハードと比べると100分の1以下で済むわけですよ。ただ、どこにつけるかというのは、それは自治体の判断にお任せいただきたいと思っておりますので、ほら、若木で、自公政権ですので、そういう観点で、やっぱり我々としても力を尽くしていきたいなと思っておりますし、御指摘はよくわかっておりますので、そういうふうに、私どものほうからも事務的に、これはメニュ

一に加えてほしいということは申し上げていきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

これでもう消火せんが消火するになるわけですね。はい。

本当に、今、冗談みたいに言っているけど、一番早いです。近くにあれば一番早い。これが安心・安全、武雄市安心・安全に、若木町だけでなく全体につながってくると思うので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

では、今の消火栓は終わりました、次。

これは、原発事故、23番議員さんがよくスピーディの話をして、放射能の恐ろしさ、そういうふうないろんなことをおっしゃっています。これは新聞に出ていた予想ですね、放射……（発言する者あり）武雄市、ずっぽしなんですね、ずっぽし。ここで、やっぱり1年半前、こういうことが事故が起こった場合に避難訓練しました。若木町の住民が東川登の公民館のほうか、あっちのほうに行ってやりました。そういうときに、ふと思ったんですけども、消防団が最後まで地域住民が避難したかどうか、ずっと見回るんですね。ずっと見回って、最後まで確認しています。

何でか知らないですけども、ここは放射能防護服が全部あるんですよ、武雄以外は。最後までいなきやいけないところ、もし何かあった場合に、放射能にさらされるということですよ。でも、30キロ圏内だからぎりぎりだから、ここら辺はあるけど、武雄はないんですよ。杵藤消防本部にもないんですね。（発言する者あり）はい。だから、例えば、火災のとき、東北のほうもそうなんですけど、やっぱり緊急に逃げると火災が起きると、普通の民家の火災ですよ、火つけっぱなしとかなんとか。そういうときはやっぱり消防団は、消防署とかなんとかというのが、やっぱり消さんぎ、全部燃ゆっけんですね、いろいろあるけん、やっぱりそういうふうな配備も必要じゃないかと。

さっき言いましたように、全部、一番最後まで残るのが、多分、市の職員さんと消防団、見回りでやる。もちろん、警察も。警察にはあるらしいです。武雄署はあるらしいです、そういうふうなのが。消防団及び消防署、消防署はないらしいですね。ですから、万々が一のためのために、やっぱりそういうふうな備えというのも必要じゃないかと思うんですけども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は、ちょっと牟田議員さんの資料を活用させてもらいたいですけれども、東北に行ったときも、3月11日の大震災の後に、孫正義ソフトバンク社長と、私は佐賀県の知事の特使

として参ったわけですね。そこは、原発から34キロかな、ところなので、ちょうど武雄市と同じなんです。いろいろ話を聞いていたら、やっぱり逃げんばと、逃げると。それは消防団であっても、もう逃げる。多少、火災とかなんとかというのはあったにしても、私が聞いたとですよ、これ、私が聞いて、私がそれはイエスかノーかというのはよくわかりませんが、とにかく津波とか原発ので、とにかくこっちに逃げたらいかんわけですね、こっちに、そうそうそうそう。

そいけんが、スピーディが出て、これは黒岩幸生議員さんがよくおっしゃっていますけれども、これを早く我々は察知をして、住民の皆さん方に防災無線とかコミュニティーFMとかで、この方向だけは逃げたらだめですと、ですので、例えば、これで言うと、東のほうに逃げてくださいますとか、西のほうに逃げてくださいますということ、いち早く、そこに消防団の方が残るとするのは、基本的には考えられないんですよ。放射能の濃度にもよりますが、ですが、ただ、ないということになると、それはちょっと問題だと思いますので、これ補助メニューが今ないので、市のほうで単費で購入します。購入した上で、今後ちょっとふやしていくということについては、国の補助等を活用していきたいというふうに思っています。

ただ、御存じのとおり、防護服といってもいっぱい種類があるんですよ。ですので、私は基本的に逃げられることを想定として、軽微なものを数多くあったほうがいだろうと、重装備なやつでお金のかかるのを5つか6つあっても仕方がないので、そこはよく末藤消防団長と相談をさせていただきながら、必要な配備は行いたいと。特にその場合は、若木にきちんと置く必要があるだろうとは思っています。ですので、それはよく消防団と協議をした上で配置を決めてまいりたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

やっぱり市長がこうやって言っていたのも、孫社長と行った原体験できちっと言われているんですね。これ、何でこの質問にしようかと思ったら、訓練のときに消防団は最後まで見て回れという指示だったんですね。1軒ずっと、皆さんが避難しているかどうか見て回れという指示でしたから、こういうのが必要じゃないかということで質問したわけです。

さらに、市長がさっきおっしゃったように、重装備じゃなくていいと思います。調べたら、ヤフーショッピングに出ているんですね。10着3万円。

〔市長「もっと安かよ、今」〕

そうですか。10着3万円だったんですよ、軽微なやつだったら。だから、もうそういうふうなものでいいから、万が一ですね、そういうことで、よろしくお願ひしたいと思います。

では、次にもう1つ、災害の分です。——ごめんなさい、ちゃんと画像用意していました。失礼しました。3,000円。これでいいらしいです。もうとにかく放射能、放射線が直接入っ

たらだめですが、放射能に含んでいるいろんなものは、もうこれで防護できるらしいです。ヨウ素とか何とか何とかで忘れましたが、はい。すみません、ちゃんと用意していました。失礼しました。

次、災害の一番最後のところなんですけれども、やっぱり山崩れ。前回、いろんな質問をしました。災害対策で5軒以上ないとその要綱でできないから、その3軒を少なくしてくれとか、そのパーセンテージを何とかできないものかということでした。

そこで、もう1つ、ちょっと別メニューなんですけど、お願いしたいのは、これは普通の全然関係ないところの画像を拾ってきたんですけれども、地権者、崩れた山、山の地権者、そして家のほうに来ている人、ですね。お金を出すのは多くは、本当は話し合いらしいんですけれども、こっちの家の人、崩れたほうじゃなくて家の人が多いらしいんですね。通常、あなたのところが崩れたけん、あなたのところも少し見てばいというふうなことがあると思うんですけれども、やっぱりこうやって来たほうのものが来ると。やっぱり山と家というと、地権者が近所に住んでいるときが多いんですね、お互いの地権者。そいぎ、お互い言いにくかわけですよ。あんたところの山の崩れてうちに入ってきたとやろうもんで、いや、あんたは安全のために防護壁ばすつとやろうもんというのでなつて、近所同士じゃいけないので、ぜひこういうのがある、もしくはそういうのがあるところ、市が間に入って、ちょっと、調整みたいな形で、そういう調整機能を果たせないものか。やっぱり御近所同士とかなんとかというのが多いので、そういう調整機能が果たせないものか。これをここの災害の最後の質問にしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

災害復旧につきましては、受益者の方から一応負担金を徴収するというふうなことになっておりまして、申請をする場合には、工事の内容、あるいは工事費、それから、負担額等が大体どのくらいですよというふうなことを示して、同意を得ながら申請をして、工事に着手するというふうなことにしております。

さっき議員さん言われたように、受益者と所有者が異なる場合は、どちらが負担するのかというのが、今、いろいろなところでも問題になっているところでありますけれども、行政としてどちらにどれだけ払いなさいというふうな判断をする立場にはちょっとないというふうな考えていまして、両方で十分話し合っていただくというのが根本ですけれども、その相談等には十分乗っていつているところであります。（「議員さんによろしく願いしますで……」と呼ぶ者あり）

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

どっちがどっちということは、一応そういう場を設けたり、調整機能をちょっと働かせていただきたいというふうに思います。やっぱりこういうのも、これから先はふえると思うんですね。ぜひそういうふうな調整機能の充実をお願いしたいということで、次の質問に入りたいと思います。

これ、今、答弁した部長さんですかね、秀島課長さんずっといらっしゃるんですけど、まず、経済、景気のところの部分なんですけれども、オルレですね、結構新聞見る人はわかると思うんですけど、何百人と来ていらっしゃるんですね。やっぱりそういうふうな武雄に物すごく景気というか、経済的に影響を及ぼす大きな事業だと思っています。

こういう中で、今後このオルレ、ぜひ頑張っていていただきたいと思うんですけども、今後どのようにこのオルレを、実績でもいいですし、こういうようなものですよというのを、ぜひもう一度言っていただきたいのと、これの観光協会との協働はどのようにされていくのか、この2点をお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

オルレにつきましては、昨年の3月以降11月までの間に韓国の方から、これは韓国の旅行社の調べで、1,263名の方が武雄市に来られております。

それから、1月には日韓登山大会、（モニター使用）これがオルレコースですけれども、1月には日韓登山大会に311名の方が来られております。これが日韓登山大会の誘致の状態ですけれども、そういうことで、この方たちが武雄に泊まっていたというふうなことです。

それから、国内の参加者につきましては、個人で来られる方もおられまして、なかなか把握するのが難しいんですけれども、JRウォーキング等で来られた方、大体500名程度は来られているだろうというふうに推定をしておるところです。

今後の見込みということですが、3月末からゴールデンウィークにかけて、福岡からの日帰りツアーが造成されまして、その分を今現在募集中というふうなことであります。

それから、九州観光推進機構も本格的に国内からの誘客ということで、各旅行社のほうへ売り込みを開始しておりまして、さらに地域の団体等との協力によって、イベントの開催や滞在時間を延ばすために第2のコースを設定できないかというふうなところで、今、取り組みを行っているところであります。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

年間何千人と来られるということで、これからもまた伸びていくでしょうから、ぜひこういうのを、さっき観光協会との協働をどうされるんですかという答弁はなかったんですけども、例えば、オルレ何千人、武雄の議会への視察何千人と合わせたら、もうすごい数になるので、これも観光協会さんもきちっとして協働事業でやったほうがいいんじゃないかというぐらい思います。

第2のコースを探しているというから、ぜひ大楠と風穴を候補にひとつしていただければ助かると思うんですけども、その観光協会との協働のところはどうなっているのか、これをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

観光協会も含めて、今、商工会議所、あるいは商工会と連携して、体制整備を行っているところでありまして、市民一丸となっておもてなしが必要ではないかというふうに思っているところです。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

でも、今の観光協会のまんまだったら、それはちょっと無理なので、というのは、それは能力がないと言っているわけじゃなくて、今、韓国から、あるいは国内からも予約多いんですよね。ですので、特に韓国のオルレを言うと、例えば、韓国語を話せるとか、表記とかというのは、ぜひ観光協会に一部担っていただきたいと思っています。

そこでこ入れとして、うち、4月1日付でうちの職員を、これまたエース級の人間を出したいと、ちょっと名前はまだ本人に言っていませんので、ここで言いそうになっても、言いませんよ。なので、そういうことで行政がまたしっかり支えて、観光協会とうまく連携がとれるようにしていきたいと思っています。

できれば白濱さん出したいと思ったんですけど、もうそろそろ退職なので、それはちょっと出せませんので、もう少し若い人で、白濱さんぐらいの馬力のある、破壊力のある人間を出していきたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

そうなんですよね。表記、メニュー、僕はいろいろこう見るけど、韓国語でメニュー書いてあるので余り見ないんですね。やっぱり武雄市もそれだけおもてなしするなら、やっぱり

韓国語の表記があれば本当におもしろいと思います。来た人も、あるまいと。

私、たまに三夜待というグループで——たまにというか、昔、韓国に行っていたんですね。そういうときに、向こうのメニュー、やっぱり日本人いっぱい来るから、メニューを書いているんですね。

この写真、私行ったとき写しました。「えびクリーム スーパゲティ」、これエビクリームスパゲティのことですね。こうやってたどたどしくも書かれているんですよ。おもしろいのばかり見えています。例えば、こういうのも、おしるこ、ぜんざいて、両方とも間違っているんですけども、こういうふうにして、これね、わざとこうやっているんじゃないくて、こうやって頑張って書かれているという意味でしているわけですよ。武雄はこういうのはありますか、ないでしょう、多分。これもそうですね。「生いだこにいたたべもの」とか「おおくのしゅゐいあぶらあげにしたもの」とか、一生懸命考えてやられている跡がわかるんですね。韓国のあれも。これもカプチーノが「カプッチーノ」になっているんですね。これは「チチゲ」になっているんです、これ。でも、こうやって一生懸命向こうの方々は日本人のお客を自分のお店に引っ張ってこようと考えていらっしゃるんですね。やっぱりこうやって日本、さっき市長がいみじくも言われた、こういうふうなオルレで何千人も来るあれだったら、やっぱりこういうふうに通す、そして、夜の街とかなんとかも、こういうのも必要じゃないかということで、ぜひ先ほど市長がおっしゃった、いろんなところに観光協会とやっっていくということで、ぜひ期待して待っておきたいと思います。

続きまして、F B良品、これちょっと見につかいですね。ちっちゃかとばちょっと伸ばしてしまいました。よくわかりません。これも、さっき言いましたへび年、商売の年、これもう伸ばしていつていただきたい。いろんなところから注目を受けています。今できるかどうかはわかりませんが、ヤフーだったら、私、いつもヤフーオークションやるんですね、ヤフーオークション。楽天も楽天オークションというやつやっています。イーベイ、イーベイは世界最大のオークション、これはみんな参加できると。

例えば、ヤフーとかの決算見ると、ヤフーオークションの手数料というのは、何十パーセントですかね、売り上げの。もしこういう中で、F B、ファン・アンド・バイのオークションとか、そういうのができれば、そういうのもおもしろいんじゃないかと。何て言うんですかね、これは土地を、市有地を売るといとは、もちろんいろんなオークションにかけられると思うんですけども、F Bの中でオークションをやる。これも今回、I T関連の拡張事業の予算、これ結構取れていたと思うんですよ。武雄市はいろんなこういうことのソフトの構築にすごい方が、顧問とかはいらっしゃるので、そういうオークションのシステムをつくれるというのは、国の金でできると思うんですよ。これは確証はありません。

オークションというのは、1円からもちろんスタートというのもありますし、いろんなところで、多くの市民がかたれる。今まで自分が、要らないで売るといのは、フリーマケ

ットぐらいしかなかったんですね。あと、口伝えで。こういうふうな場を与えていただければ、ファン・アンド・バイの入るきっかけになるんじゃないかと、ヤフーのポータルサイトが急激に伸びたのも、やっぱりオークションの力が物すごく大きかったと。

さっき言いましたように、今度の緊急対策事業の中のIT部門というのも、少なからずの金があつて、そういう中で、こういうソフトの構築もそういうとでやっていただければ、そう費用をかけずにできるんじゃないかというふうに考えまして、こういうことも先々考えられるんじゃないかということで質問に上げさせていただきました。いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

非常にいいアイデアだと思います。ですが、ちょっと一般のサイトでヤフーとか楽天のシステムを使わずしてオークションができるかどうかというのは、ちょっとよくわからないんですよ。今、我々はメークショップというソフトを使っていて、基本的にシーズが組み立てて出していますので、そういったオークションの機能が組み込めるかどうかというのは、ちょっと時間を欲しいと思います。

そして、誤解なきように申し上げますと、今度の市有地のネットオークションについては、これはヤフーオークションに出していきます。これは1円からスタートをさせます。ですので、もともとあるものに、ヤフーオークションというのは日本最大のオークション市場ですので、これは市有地と非常に関連が深いと。だけど、FB良品に出すものについて、これをヤフーのオークションにかけるというのは、ちょっとやっぱり考えにくいんですよ。ですので、そこはちょっと分けて考えていきたいと思いますが、アイデアについては非常に、僕も一時期オークションにはまっていた時期があつて、はまり過ぎて高槻市でちょうど10年前に放置自転車のネットオークションを始めた張本人ですので、それがいまだに続いているようですが、ですので、オークションと、例えば、特産品であるとか、使わなくなったものを組み合わせるといふことについては、非常に私も理解をしたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今後、そういうふうな国の補助とかあれば、考えていっていただければと思います。こういうのは前向きな質問ということでいいですかね。

〔市長「素晴らしいです」〕

では次、経済の最後なんですけれども、これ、もう前から言っているんですけれども、事業があります。元請さんがとられます。で、下請さんに流れて孫請さんとか、ここからいろ

いる広がっていくと思うんですけども、ここだけもうけてもだめなんですね。やっぱりこの下請さんもある程度利益が取れるようにしていかなきゃいけない。孫請さんも利益が取れるようにしていかなきゃいけない。そういうふうなシステムを、今度のアベノミクスにしても、末端まで行くような形、例えば、武雄市内でもいろんな業者、AというA級ばかりじゃない。周辺部とかなんとかというのは、下請、孫請の方々がいっぱいいらっしゃる。そういう末端まで行ってこそ、初めて景気がよくなるということだと思います。こういうのに対して、前から言っております。例えば、下請承認届とかなんとかも、武雄市内の業者とかなんとか、そういうふうなことで指定をしていただくのか、こういうふうな考え方を、今後もやっていただければと思うんですけども、いかかでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

確かに言われるように、市内業者の発注というのが一番基本かと思っております。若干、状況を御説明いたしますと、平成24年度で出しました工事のうち、入札を372回やりまして、市内業者が落札されたのが95%、353社がとられております。それから、委託関係につきましては、92回のうち84回、市内業者が91%。物品発注につきましては、20回のうち14社ということで、若干落ちますが、市内が70%。

市外を指名するという場合、やはり指名する業者の数が足りないという、そういう観点で指名しているというのがほとんどでございます。それと、物品の場合につきましては、市内で取り扱う業者がいっぱいじゃないという、そういうことから、若干ではございますが、市外業者がお入りになっているということでございます。

御質問の下請承認申請関係になりますが、これは、担当課のほうで承認する際に、そういう指導をしていくということで御理解いただきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひそうやって市内業者育成、末端まで景気が回るようなアベノミクスをそのまま武雄市のほうでも当てはめていただければと思います。

経済関連の最後になりますけれども、先ほど19番山口議員さんと市長の間で、新幹線の分が出ていたと思うんですけども、新幹線こそ、本当にこの経済対策、景気対策に物すごく寄与すると思うんですね。国の金でやっていただくと。長野までは財政投融资で数千億円、国がみずからお金出しています。全て地域負担じゃなくて、国の都合でこれは出す、これは出さないということで分けていらっしゃると思いますので、ぜひ今度の分を出していただければと思います。

では、次の3番、地域活性化の部分に入りたいと思います。

前回、これはちょっとあれですけども、塩田の住宅団地の例を出しました。塩田町の住宅団地の例を出して、物すごく武雄市から二十数世帯がそちらのほうに住まれたと、すぐ埋まったという話をしました。で、今度はもう1つ別の例で、多久のメイプルタウンですね、パープルタウンというのが何か歌にあったと思うんですけど、メイプルタウン、130戸で、これは多久もとの部長の木島武彦部長が企画されてやったんですけども、百三十数戸、1年数カ月で全部、ここ、昔何もなかったんですね、埋まったらしいです。これは高速のインターがここか、ここの横、大体インターのところ山が多いですから、やったそうです。

こういうふうには、塩田のちょっと外れのほう、例えば、多久の外れのほう、そういうふうな住宅団地をしても十分こうやって埋まっていくというふうなことで、話をしているって、質問通告に出しておりました物すごく若木町でも期待しているのがあるんですけども、太陽光村、その後どうなったのかということで、よく聞かれるんですけども、きょう区長さん方もいらっやっています。ぜひこの進捗状況をお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

お答えいたします。

去年の6月議会、牟田議員にお答えしたとおり、太陽光村はぜひやりたいと思っております。これですか、はい。採算性の観点から、土地の買収が高くなると、それだけ売価が高くなるということで、地元の関係者への協力と、前さばきですよね、というのを牟田議員さん、松尾陽輔議員さんをお願いをしています。ですので、我々とすれば、適正価格できちんと買わないと、これ市民負担にもなりますので、その前さばきはぜひ引き続きお願いをしたいと思っております。

あわせて、当該用地というのが、第1種の農地なんですね、第1種の。農地でありますので、この開発というのは非常に限定されます。そういう意味でいうと、多久のメイプルタウンとはちょっとやっぱり違うんですね、制限がかかっていますので。農林水産大臣、これは具体的な権限は地方の九州農政局長に委任されていますけれども、今のところ、優良田園住宅という制度があるんですよ、優良田園住宅と。その認定を得る方法しか今のところないと考えていて、これ、県とも調整をちょっと今進めているんですけども、現在、認可の可能性について、県、国の関係機関と協議を行っております。

ですので、ここが全然制限のかかったらんやったら、えいやってできるんですけども、当該場所が、そういった意味での非常に制限の高い第1種農地という位置づけで、先にこれ解いとかなばいかなやっただけですよ。何も使いよらんやっただけに。ですので、それはもうはっきり言って、前の市長さんとか私、私も当然責任はかぶりますけれど、ある意味、そ

ういう意味での前さばきができていなかったなというので今反省をしております。いずれにしても、これはぜひやりたいと思っていますし、もし、住む人がいなかったら、牟田議員さんと松尾陽輔議員さんと僕は住まなきゃいけないと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

そうやって制限をクリアしてやって、努力してやっていただければと思いますし、私も松尾議員さんも協力してやっていきたいと思います。

お結び課、先ほど10番の古川議員さんも話が出たんですけども、やっぱり独身者の方々多いんですね。これはもう隠しようのない事実で、その中で、これをどうこうということはないんですけど、以前ですね、私、20代のころ、20代の後半ぐらいに、どこかの企画で1日お父さんという企画に行ったんですね。1日お父さん。

1日お父さんはどういうことかということ、ひとり親家庭のお母さんが、例えば、20人ぐらいいらっしやると。子どもも20人から30人いらっしやると。その1日だけお父さんやりますよと、一緒に遊園地に行きますよと、そういう事業だったです、バスで。すごい楽しいんですね。向こうも子どもたちが、1日だけとはもうわかっているんですけども、一緒になってやあやあ言って、その中でもカップルができるわけですね。独身です。ひとり親ですけども、独身、我々も独身ですから、こういう企画も考えられるんじゃないかと。1日お父さん、楽しいですよ。3日お父さんでもいいかもしれない。独身同士でしたから。（発言する者あり）いろんな場合も考えられると思うんですけども、何かおかしいこと言いましたかね。（発言する者あり）よかですよ。

こういう企画が十数年前まで毎年あっていたような気がするんですけど、いつの間になくなったので、こういうのもぜひ、そういうふうな企画の中に、そのときの画像とかなかったんですね。でも、みんな楽しかった。バスで諫早の干拓の森に行って、面々行って、面々で御飯食べて、帰るときにはそういうふうな人たちは電話番号を交換するとかなんとか、結構あっていたんですね。完全に独身なら独身者でもいいんですけども、ひとり親家庭の1日お父さん、ひよっとすると1日お母さん制度でもいいかもしれない。だから、こういうのも考えられるんじゃないかという御提言ですけども、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

私の記憶では、恐らくお父さんになられた方は、当時の青年会議所さんの御協力があったのかなという、記憶違いかも知れませんが、そういった団体の方が協力した形で、福祉サイドの事業として取り組まれていたのではないかというふうに思っております。

先ほどの御提言につきましては、福祉サイド等、そういう事業がないのかということも調査の上、提言について参考にさせていただいて、イベントに生かしていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

古川議員さんもおっしゃっていた合コンもいいと思います。合コンもおもしろいです。こういうのもぜひそういう中に入れてやっていただければと思います。

地域活性化の中で、きのう話が出た中で、校区制度の撤廃というのがありました。校区制度の撤廃で、そういうので、例えば、若木とか北中のほうでアレルギーの子どもを受け入れたりなんとかというのを、その後、調べたんですけども、校区制度というのは、尋常小学校時代はなかったらしいんですね。

〔市長「そうなんだ」〕

はい。近衛文麿内閣のときに、ドイツの国民学校をまねして、初めてそこで校区制度というのを取り入れて、教育基本法第5条では、地域の市町村教育委員会の判断に委ねることになっていますので、ぜひこういうのも、一つの地域活性化ということで取り組んでいただいて——取り組むというか、研究していただければと思います。この件に関してはいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは教育委員会の専権ですので、私が申し上げるのは、その市政を統括する立場と、もう1つは予算を伴う話ですので、その立場からお答え申し上げますけれど、これね、校区を一気に撤廃をすると、恐らく今のままだったら、若木、武内、あるいは山内の一部ですよ、これ多分、旧武雄市のほうに一気になだれ込む危険性があるんですよ。ですので、校区の全面開放じゃなくて、一方開放ですよ。片務的開放という言い方をしたいと思うんですけども、要は、例えば、旧武雄市の武雄町であるとか、人口が伸びているところの小学校とか中学校の皆さんたちが、いろんな事情があって、例えば、アレルギーであるとか、いじめもあるかもしれません。そういったことで、周辺部の小学校、中学校に行くのをまず認めるということを、段階を踏んでやらないといけないということですので、まず、私がちょっと教育委員会と調整をしたいのは、まず、部活の校区を外す。もう動く。その上で、もう議論をしている場合じゃないんですよ。

現に、きのう上田議員からも教えてもらいましたが、鹿島と武雄中学校が——あ、すつとでしたっけ、よかですか、言うて。ソフトボールでしたかね、少ない学校同士が結びつい

て部活を一緒にしている。鹿島がもし人口が、学校ね、ふえれば、ひょっとすっぎ外れてしまうんですよ。そうなったときに、永続的に活動ができないという危険性があるわけですよ。ですので、先ほど申し上げたとおり、部活、基本的には武雄中を想定していますけれども、武雄中の部活、山内中にもなるかもしれませんが、そこに周辺の、例えば北中であるとか、川登中であるとかの児童が入ってきて、部活を一緒にするというのが第1段階。

第2段階は、先ほど言ったように、片務的な開放。だから、なるべく周辺部に行けるように、だから、周辺部の学校というのは、物すごく努力しなきゃいけないんですよ。例えば、給食で特色を持たせるとか、例えば、この学校は——例えばですよ、国語教育、英語教育で特色を持たせるとかというふうにしないと生き残り無理。ですので、それは頑張ってください。そうやって頑張っている学校には、集中的に予算を投下していきます。ですので、校長に頑張りが見られないところは、予算やったって無駄なんですよ。ですので、これは校長の奮起をぜひ促したい。今度、そういう環境にします。

最終的には、さっき言ったように、校区の全面開放と、多分その3段階になるとと思いますので、これは教育委員会とよく調整をして進めていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今言われたことは、教育面だけじゃなくて、地域の活性化も含めた全ての面で大きな影響力を持っていると思いますので、ぜひ研究して実施していただきたいと思います。

では、次。

これは、湖水まつりであっていたんですね。今度はメガソーラーになったので、ちょっとあれだったんですが、若楠パーク、これ、ちょっと画像がすみません、ちょっと小さいやつしか撮っていなかったもので、湖水まつり。これも湖水まつりですね。若楠パークの宣伝でした。これはパーク人形、これ何やったですかね、たまたま画像拾ったんですけど、これ若楠パークの宣伝なんです。

これ、先日ちょっと焼き肉呼ばれたんですけども、これは鹿ですね、これはカモ、これはコーチン、これは何だったですかね、こういうふうに関んな肉があったのをいただいて、本当おいしかった。これがアナグマの肉、これはもう最高ですね。めったにとれないという、これもいただいてきました。これは、脂身の部分が抜群に、におい全くないです。すごかったです。で、こうやっていただいたんですけども、やっぱり若木町とか周辺部では若楠パークが物すごく力を入れていらっしゃる。もちろん牛もあります。

そういうふうな中で、これは若楠パークですね。これは、ちょっと変なんですけど、大楠公園です、ここ、大楠公園。今度、バイパスがこう通るんですね。こうか。で、大楠がきちんとこっち側から借景が物すごくよく見えます。ただ、おりるには、こう来なきゃいけない

んですけれども、ぜひ今言った若楠ポークとか、いろんな種類のお肉とか、いろんな食が食べさせられる、料理のできる、この辺の大楠公園の近くにそういう場所ができないものか、今度の地域活性化事業で。やってくださいというか、ぜひそういうメニューを見つけることをお願いできないものかという質問なんですけれども、やってくださいといったら、これは無茶になるかもしれないので、今度の経済対策とかなんとかで、そういうふうな、多分畜産何とかで、またちょっと忘れたんですけど、いろんなのがあります。そういう中で、このところにそういうふうな食とか地域の分でできないものか。

きょうくしくも、きのう市長がおっしゃったシェ・イノの古賀料理長があるんですけれども、やっぱり食というのはすごいですね。さっき言ったうちの前、火災というのが、そば屋さんというのはもう新聞に載っていたから言っていると思うんですけれども、まだ来ていらっしゃるんですよ、火事て知らなくて。うちにいつも、あそこ火事だったんですから、いっぱい来られるんですね。やっぱり食というのは、引きつける能力がある。ぜひ、ここはこういうふうなバイパスもできて、多久も唐津も伊万里も武雄も有田も、物すごく中心でいいところですので、そういうふうな補助メニューがないかどうかというのを、まず1つ目に質問いたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ごめんなさい。私もいろんなところに行きますけれども、補助メニューを活用してできたところで、僕はおいしいところは知りません。やっぱりこれね、民間の人たちがリスクを負って、一生懸命骨身を削って、メニューを磨いて、宣伝をして、そういうところでしか僕は無理だと思うんですよ。ただし、例えば、三重県の、この議会でも出ましたけれども、モクモクファームというのがあって、あれはいろんな多分補助金とかがあるんですけれども、あれも附帯施設があってこそなんです。ですので、例えば、そこに食べ物屋さん、レストランをするで、だから、牟田議員さんの目の前のそば屋さんでも、あそこ、補助金は一定古民家を改装するときにあったかもしれませんが、その改装の部分はあるにしても、じゃあ、そのそば屋さんそのものに補助金というのはやっぱりないわけですよ。

ですので、僕はそれよりも、今ちょっと制度設計やっていますけれども、新たな交付金をつくらうと思っているんです。起業するに当たっての交付金をつくらうと思っている、今、うちの職員、小松を中心にして制度設計をしていますけれど、それがうまくまとまったときに、9月議会で、議会とまた御相談をさせていただこうと思っているんですね。それは、後押しとしてはあるかもしれないけれども、何かその国の補助金とか県の補助金とか市の補助金を目当てにしてというのは、ちょっと僕はそれは本末転倒だと。

しかし、僕らは、例えば、市報であるとか、あるいは私のフェイスブックでもブログでも

ツイッターでもいいんですけども、おいしいところ、頑張っているところについては、どんどん発信していきます。ですので、今、おかげさまで市報を見てきたとか、私のフェイスブックを見てきたというのは、結構やっぱり多いんですよ。そういう意味での応援のほうが、より長くお店を維持できると。だから、僕は、シェ・イノが補助金もらったというのは聞いたことないです。東京の京橋のね。ですので、もう補助金要らなくてというぐらいのやる気のある人たちがやってきて、その環境を整えるには、若木が一番いいですよ。今、結構移り住んでいられていますので、そういう人たちの後押しをぜひしていきたいなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

今、市長がおっしゃいました補助金をもらって成功したことは少ないと、ないんじゃないかということであるんですけども、ぜひ頑張っているところには応援する、その交付金を考えられているということですから、もちろん若木に限らず、いろんなところが知恵を出してくると思います。そういうときには、ぜひ後押しをしてやっていただきたいと思います。

〔市長「はい」〕

では、次。

これは、これも地元のことなんですけれども、ここ、若木町公民館です。若木の公民館。ここ、農協、JAです。こっちが伊万里側ですね。ずっと小林クリニックさんがあって、公民館があって、JAがあると。そして、ここは郵便局です。ちょっと言えば、JAというのはどこでもJAの支所というのは、各地域のへそになるんですね、へそに。今はJAの統廃合が進んでいます。例えば、ここは橘町です。山崎議員さんのいらっしゃる橘町、これもやっぱりへそのところにあるんですね。ちょっと橘町しか撮っていなかったんですけども、例えば、統廃合になるJAの支所というのは、もちろんこれは行政とまた違いますけれども、一応へそにあるというので、やっぱり地域活用していただきたい。そして、民間も欲しいという人がいらっしゃるかもしれない。

そういう中で、例えば、若木の公民館は、もう建てて結構たちます。今度、武内がつくりかえになるということで、先ほどお金出すのももうあれだよというて、本音言えばというて、市長もおっしゃったんですけども、例えば、これとこれを交換してほしいという人はここを売るとか、そういうことが考えられないのか。例えば、さっき言いました並び、病院があって、公民館があって、JAがあると。この前、部落の座談会というのが、JAの座談会がずっとあって、多くの方が、ここもつたいないと、新しいし、いろんな座敷もきれいで、建物もあれで、公民館からこっちのほうに移ったほうがいいんじゃないか、公民館をそのままして、欲しいという人がいれば、そっちのほうで等価交換できないかと。

これはわかりません。その価値自体が、広さもしっかりしていないですし、上物の減価償却も私知りませんので。だから、そういうふうなずるっとしたところで、そういう調整機能がないのか。さっき言いました各JAというのはへそにあります、各町内、やっぱり農業主体だったので、どうしても役場よりも農業のほうが中心になってきました。ですから、そういうことが考えられないのか、これをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとこれね、行政がそこにまず入るとするのは、ちょっとやっぱり考えにくいんですよ。それこそね、やっぱり僕は議員のお仕事だと思うんですよ。だから、行政が調整する前に、前さばきというとちょっときついかもしれませんが、それはやっぱり地域の議員の、僕はお仕事だと思っていますので、考え方としては、僕は成り立ち得ると思います。どっちも私はよく知っていますので。

だから、ぜひJAさんに、これ、JAの持ち物なんで、我々がどうこう言う話じゃないんですよ。ですので、一旦ちょっと話をさせていただいて、恐らくJAさんにしても、今後これをどうするかというのは、まだ少なくとも僕のところには全然入っていませんので、JAさんも主体的に検討されると思うんですよ。その傍らに、そういった意見がありますとか、アイデアがありますというのを、ぜひ投げかけていただければありがたいなと思っています。行政の調整より牟田さんの調整のほうが上です。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

そうやって調整する前に、ここを交換できるのかということを、いいですよと言っていたきたいので、そうやっていろんな区長さん方いらっしゃいますし、相談してやっていってみたいと思います。

では、駆け足で次に進みます。

4番目の教育について。

教育については、前から言っている2学期制です。2学期制。2学期制なんですけれども、これは、前から言っていて、これはアンケートをとるということで、じゃ、わかりましたということ、前回質問をそこでやめたと思います。ただ、アンケート見ていたら、何かのついでに書いてありましたね。2学期制をどうしますかじゃなくて、何かの中の一つだったですね。

今現在、2学期制自体なんですけれども、どんどん撤退していますね。今度の3月でもうやめるというところが、前回に比べて、もう全国で数十校、毎年毎年、3学期になったら、

2学期制になったところが3学期にリターンしているというのが物すごく多いですね。そういう中で、武雄市はアンケートも取りました。今後、どういうふうにされるのか。私は2学期制のメリットが全く見えない。わからない。この前言いました授業日数が20時間確保できるといっても、出張時間が800時間ふえたら意味ないんじゃないかとか、そういう話もしました。そういう中で、ぜひこの2学期制を深く考えて3学期制に戻っているというのがあるんですけども、そういうのができないのか、どうなっているのかと、これは1点目。

もう駆け足で言います。

2点目、週休2日制、土曜日学校のやつが話題になっているんですけども、どうしてもこれは先生の40時間労働が物すごくネックになると思うんですね。一番引かかる分が。ではどうすればいいかという、人をふやさなきゃいけない。人をふやしたら、ふやした分の先生の給与は行政が持たなきゃいけない。じゃ、どうすればいいのというたら、例えば、神埼がやっている、あと、いろんな自治体がやっている夏休みの部分で、それを調整してやるというのは、そしたら、自治体も先生のプラスアルファのお金を払わなくていいとか、そういうのがあるとは思うんですけども、この3学期制へのカムバック、2学期制のアンケートはどうなったのか、土曜日学級、これを3つ、あわせてお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

若干長くなるかわかりませんが、一緒に聞いていただいてお話ししやすい部分がございます。といいますのは、土曜日の開校が、政権かわりまして話題になってきつつあります。文部科学大臣等も話題にされております。ただ、実際には5日制で動いているわけで、戻すとなると、また大変な作業が要るわけでございます。5日制で小学生もかなり夕方遅くまで勉強しているというのが出てきているわけです。

教育委員会としましては、現在、各学校に対しまして、来年度10日程度の土曜日等の開校の計画をお願いいたしております。土曜日等といいましたのは、土曜日、それから日曜日、運動会等がありますが、それから、今お話にあった長期休業、夏休みですね、これを用いまして、土曜日等で年間10回ぐらい、できれば小中同じ日のほうが家庭としても都合がいいんじゃないだろうか。ただし、いろんな授業で小中別にするときはそれでもいいというような形で、今計画を立ててもらっております。

なぜ今で間に合うのかということですけども、今年度、県内各校、市内では北方中学校と山内中学校において試行をしていただきました。その中で、夏休みに北方中では職場体験等を、時間がゆったりとれるということでもらいまして、じゃ、その分、平常にしていた分をほかの授業でできるというようなことで、土曜日等の開校で10日程度の授業日をつくっていったらどうかという計画を、今お願いをしているところでございます。

その中で出てまいります課題というのが幾つか出てまいります。おっしゃいましたように、先生方の勤務がございまして、これは今年度から、その土曜日の前4週間、後ろ16週間の間で都合のつくときに先生方休んでくださいという形に延びて、県のほうでも調整をしております。したがって、そういう先生方の勤務のことは、10日程度であれば可能かなというふうに思っております。

それと、一番根本は、やっぱり子どもたちのことを第一に考えないといけないと思うんですが、今、いろんな調査がありますけれども、やっぱりかなりの割合で、何となく過ごしている、なすことなく過ごしている土曜日というのが、かなりの子どもたちいるわけでございます。特に、塾があるといいまして、大都会等に比べれば少ないわけです。あるいは、本当に社会体育、部活、大事で体鍛えていますけれども、その時間が非常に長くなり過ぎないかというような心配をされる親さんもいらっしゃる。そういうことで、現在、その土曜開校について、計画をしているというところでございます。

その一つの理由に加えますと、やはり授業時数がふえているというのは事実でございます。これまで申しましたように、出張との兼ね合いで申されましたけれども、實際上、やっぱり若干の余裕を持って授業時間を確保できているというのは、2学期制のメリットとして現実にあります。アンケートにつきましても、とらせていただきました。いろんな御意見をお聞かせいただきました。その中で、おっしゃいましたような御意見もちろんございましたし、ただ、現在ほぼ定着してきているので、急にはというような御意見も確かにございました。

現在、合併しまして山内町、北方町ということで始めまして四、五年たっているわけでございます。制度の急激な変化ということは、ちょっと支障がありますので、それまで含めて検討をしているというところでございます。これにつきましては、今年度も、また来年度につきましても、教務主任会を中心に、授業時数との関係、いろんな面の関係を含めまして検証をしていくという予定でございます。

すみません、長くなりました。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

御丁寧にありがとうございます。神奈川県はもう全部3学期制に戻しましたよね。2学期制だったのを全て戻しました。その中であったアンケートが、父兄にとったアンケートと教職員にとったアンケートとは全く違うと、父兄にとったアンケートでは、もう3学期制に戻してくれと、教職員を含む人にとったときは、2学期制がすばらしいと、そういう全く逆のアンケートが出て、当時の市長さん、当時の教育長さんは保護者、そして子どもたちのをとったんですね。今、何よりも子どもたちのためということをおっしゃったんですけれども、神奈川県はそうやりました。

そして、山梨県、山梨県も甲府市だけではなくて、2学期制に変えたところも3学期制に戻しました。それも、全て子どもたちの目線でということ。

ですから、一番違うのは教職員のアンケートとか、今、教務主任会でということと云われたんですけども、全く逆の結果が出ているんですね。ぜひ、こういうことをさらにやって、よりよい子どもたち——やっぱりね、通知表は3回あったほうがいいですよ。もう2回で、1回して2回というぎ、後はなかけん、やっぱり3回して節目ば、竹の強かとも節のよんにゆかけん強かとですもんね。ぜひ、そういうことでやっていただきたいと思います。

以上で私の質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で21番牟田議員の質問を終了させていただきます。

ここで、午前中の議事進行についてでございますけれども、本来、議場で名前、固有名詞ですね、これを出すのは好ましくありません。19番議員、質問者は本人の同意をとって発言されたということでございます。そういった中で、本人の申し出もない中で、議事進行で名前、固有名詞を出すのは好ましくないと考えます。今後こういったことがないように、注意、配慮していただくことをお願い申し上げます。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。